

一般財団法人市川市福祉公社

平成 28 年度第 4 回介護・医療連携推進会議 議事録

1. 日 時： 平成 29 年 3 月 14 日（火） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 15 分
2. 場 所： ザタワーズイースト 3F I-link ルーム 1
3. 出席者 20 名

〔委 員〕

議長 藤城 誠一様
委員 四ツ屋 真由美様
委員 村尾 薫様
委員 鈴木様
委員 鈴木 靖成様

以上 委員 5 名

〔オブザーバー〕

市川市福祉部福祉政策課 2 名
高齢者サポートセンター市川第一 1 名
高齢者サポートセンター市川第二 1 名
高齢者サポートセンター真間 1 名
居宅介護支援事業所 1 名
訪問介護事業所 1 1 名
訪問介護事業所 2 1 名

以上 オブザーバー 8 名

〔事務局〕

常務理事 下川 幸次
事務局次長 今井 真希
訪問介護課長 長尾 容子
当該事業管理者 市川 奈津子
計画作成責任者 館山 史陽、岩瀬 裕介 萬徳 雄一

以上 事務局 7 名

1.開会

(1) 市川市福祉公社常務理事より挨拶

開会にあたり定期巡回随時対応型訪問介護看護事業の現状を説明

(2) 委嘱状交付

ご家族代表 鈴木様

(3) 委員等紹介

事務局より、委員等紹介を行う

2.事務局より資料の説明を行う

(1) サービス提供等状況報告

(2) 事例報告

3.質疑応答

●サービス提供等状況報告について

<四ツ屋委員>

- ・相談のみでサービスに至らなかった理由は何か。

<事務局>

- ・ターミナルケア対象者で利用前にご逝去されるケースが多い。認知症の方で、CMとしては利用させたかったがご本人の受け入れが難しく利用に至らなかった、などである。

<村尾委員>

- ・今年度は件数が増えて良かった。CMの方にも広がっているのではないかと思う。

目標件数はどのくらいか。

<事務局>

- ・目標は12件としている。

<村尾委員>

- ・ほぼ達成ですね。もっと増やすことは可能か。

<事務局>

- ・職員配置を調整し、直行直帰のヘルパーも組み込むことで増やしていけるのではないか。ニーズがあれば、対応していかなければならないと考えている。

<鈴木委員>

- ・ケアマネージャーの反応はどうか。

<事務局>

- ・事業の名称は知っていて、日にいくら使っても同じ金額ですか、という問い合わせが多い。まだまだサービスの内容についての周知が足りないと感じている。

<鈴木委員（ご家族代表）>

- ・件数が少ないと感じた。

<藤城議長>

- ・概ね落ち着いてきて、この形で進めていって良いと思う。今まで頂いた資料を見返してみると前回9月から11月で定期訪問回数は、570回程度であったが、今回800回前後と増えている。寒くなると多くなるのかと思うが、去年は、夏場に一番多く、利用者13人、定期訪問1,140回という時もあった。今の数字がちょうど良いように感じる。一事業所増えたこともあり、この数字が継続できるように努力してほしい。

●事例報告について

<四ツ屋委員>

- ・事例1は短期間だが、良い事例だったと思う。事例2は良くなって今後のステップアップが期待できる。

<村尾委員>

- ・イメージし易くこういう使い方で導入できるんだ、ということ、また、他のサービスへ移行していかれることが判り勉強になった。事例2は、施設から在宅へということで、熱意が感じられ周囲が頑張っていると思った。本人の意向が第一ではあるがなかなか沿えない中で、みんなの協力があり出来ていると思う。

<鈴木委員>

- ・本人の意向の線引きが難しいところであるとは思う。
事例は、とてもイメージし易く、PRする上でもつかみやすいと思う。

<鈴木委員（ご家族代表）>

- ・母もホームでは寝たきりの状態でトイレに行かせてもらえなくて嫌だと言われ、ケアマネジャーに相談して定期巡回を知った。独居の方は、排泄介助の訪問回数が3回位では足りないのではないか。

<藤城議長>

- ・事例1の人が来ると疲れるということは、人と人の相性もある。民生委員になった時、「なんで来たんだ。来なくていい」と言われた。見守りは大事だが、ある一定の距離は置くようにしている。事例2の随時で呼ばれる頻度はどのくらいか。

<事務局>

- ・日により随時が上がらない時もあるが、上がる時で日に2,3回程度。ご家族にも協力して頂いている。

<藤城議長>

- ・そこに派遣するのも大変だと思う。事例をみると良い結果になっている。

●オブザーバーの方々から

<福祉政策課>

- ・公社より実績を頂いているが、徐々に利用者数も増え、落ち着いてきている。定期巡回は、これから必要となるサービスであり、ヘルパーの質を高めていかなければと思う。

<高齢者サポートセンター真間>

- ・事例は、サービスがイメージしやすい。支援の方と関わることが多いが、大変勉強になった。

<高齢者サポートセンター市川第二>

- ・事例は判り易く、こういう使い方もあるんだなあと思った。退院に伴う時など、公社の説明が判り易かった。ご家族も日中安心して仕事に行ける。今後更に高齢者の一人暮らしが増えると思われるので参考にしていきたい。

<訪問介護事業所1>

- ・事例はとても参考になった。事業について周知して頂く重要性を感じているが、やはりまだまだ周知不足を感じている。引き続き、周知に向けPRしていきたい。

<居宅介護支援事業所>

- ・今回担当ケースを事例に取り上げて頂いた。本人らしい生活をしてもらいたく、施設から自宅に戻られ定期巡回サービスを使用し、トイレにて排泄できるようになった。今後は、

デイサービスも検討している。事業間で連携を取り、力を合わせてやっていきたいと思っている。

<高齢者サポートセンター市川第一>

- ・初めて参加させていただき、事例は判り易く、とても良かったと思う。

<訪問介護事業所2>

- ・私どもの事業所は、3月より定期巡回サービスを開始し、現在まだ0件であるが、相談は、何件か来ている。相談内容の中には、「長時間いてほしい」との依頼もあり、なかなかサービス内容についての理解まで至っていないように感じている。

4.閉会

閉会にあたり事務局より挨拶

- ・次回介護医療連携推進会議予定 平成29年6月13日(火)

上記の通り、委員の方より頂きました、貴重なご意見をもとに今後とも取り組んでまいります。

長時間にわたり、ありがとうございました。

以上

文責：市川市福祉公社
訪問介護課 巡回係 館山